



遠近新聞  
第廿三號

定價一匁



西垣文庫  
文庫10  
7265  
21



時文庫10  
7265  
21



遠近新聞第二十三号

慶應四年五月廿三日

喻言一則

唐通居士作

何る井戸の内は年頃一疋の蛙もきりり此蛙ある時  
思ふや我此内の主とて心は叶もきとりふこと  
あり然るを世の人と井の内蛙あると何ぞけら  
るも口あき次第ありきと今より諸国遊覧を  
企て何ぞぬく世の有さきを見やと獨言しつ井  
戸の内を這ひ出て傍ある石の上と登りて頭を挙げ  
遙の彼方を望みんとせし元來蛙の眼は背は着き

遠近新聞

第二十三号

百十五



5732

つとむ彼方の見へきして却て後ろの方ある元の井戸をぞ見てるるされば此蛙世の中只我任める井戸をのりありと思ひて再び其内に入りてぞ任まけりその如く人も愚ある者の志を起さしめりて何事も成就せざるも愚あるまゝして生涯を果したる元来眼の着け所のよめざる故よりあり君子とらん人のよく此道理を弁へて自ら心まべきことよ  
まん

○  
十六日朝大塚護持院へ彰義隊のより五百人斗り来

つりーが其夜の内又出立しつり其後又の上野の方より六百人斗り来つり翌早朝又出立せり其跡へ官軍方二■人程来つり護国寺観音の迹辺見廻り有之  
以処夕刻又引取り又お成り以尤其中町家又居残り  
よお成り者も有之哉のよ

○  
十六日朝山王社内侍体の死骸十一人程と見ゆ  
由何事あるや未と詳あり

○外國雜報

巴勒よりの報告

四月十五日裁判のミニストル。バロツセより今欧羅  
巴の和睦を破るべき事ありと觸とく  
四月十六日ムニセとりの所より魯西亞の前使節と  
當使節と一騎立ちの戦ひあり當使節深手を負ひ  
り多分同人の退役とすべし

フロレンスよりの報告

四月十六日ボロクナとりの處より一揆起りしり

龍動よりの報告

四月十六日デンマルカ國の政府より佛蘭西よりサン  
ト。クリユキス島を賣るの掛合始まりしり

コツペンハーゲンよりの報告

四月十六日普魯士よりデンマルカへの掛合し城砦  
何ヶ所を魯西亞に譲るべしとありしり  
カ之を拒とくしり

○ 當朔日頃奥列白川より戦争あり官軍方大勝利  
のよし

○ 伊豆守殿水渡水書舟の写

去る十五日上野山内彰義隊其外屯集の者共官兵  
由差向より成り全く前上様水趣意よりお背往々

粗暴の所行よりおぼゆるものも有之ゆゑ舟由追討  
有之儀もて由家より由疑念有之筋より無之趣  
よの間に其辺篤とお心得從來謹慎の意格別お守私よ  
屯集りし騒ぎ立ち振の儀爰致間鋪若違背の者  
の急度舟の次第も有之ゆ  
右の趣由旗本由家人中へ不洩振早々お触由  
五月

○由同人由渡由書舟の写

上様由実名 家達様と奉称旨由旗本由家人中へ  
違由事

五月

○由同人由渡由書舟の写

溶姫君換由事於加列表由所旁の処由養生不為爲叶  
去る三日由逝去遊由此段由旗本由家人中へ由  
違由

五月

○奇樹の話

亞弗利加洲ビレドルゲルト國の南に當る海中に島  
々ありて其西の島はアロル島と云ふ其枝葉つ  
島は一つの奇樹を産む人之を水樹と呼ぶ其枝葉つ

ねよ清水を瀦せ日中よりあや多し故よその土地の  
人桶并鉢の類をその樹の下に置きてその水を受  
けとる此島より絶つて飲水涌くことありれども此  
水のゆるまよりに渴するもの患ひありと云ふ実  
は造物者の妙手段とりふべしとて聖水とりふ一  
千四百二年の隻ベテンコウルとりふ人此島より行  
き此水の滴るゝとの奇妙あるをて其事を書冊に記  
せしとある

ド子子ウスといふ人の説よ之れ我歐羅巴より  
ンダーウ草日露草の義の日中よりなれば水を滴らし

地面を湿ぬるまふ如きものと云ふと雖も末よその理を  
知らざ

このこと長生法よ見へり参考はる

玉里小史

○

十六日八ツ時過麻布廣尾辺の寺よ何ものり屯集せ  
る趣よ舟官軍方追討しして出張有之れ処最早散乱  
せしよしよと引取りの途中氷川多賀上総介屋鋪よ  
り出火のり折あしく風烈し近辺余りど類焼せ

紀州屋舗の者の謹慎の振子よて来月中旬より國許へ出立よお成るべき噂あり

十九号より上野山内屯集の兵隊を攀げよ今日福山の脱藩の無之趣の確報を得よ其他も傳聞の誤りありん看官疑ひを存し可あり

十五日上野戦争の事ハ第十九号より每号之を載せし今詳説を得よれば第廿五号より載せ以て其遺漏を補ふ来る廿五日出板もべし

徳川亀之助

浄用有之ハ不明廿四日辰の刻登 營可有之ハ事

五月廿三日

一橋大納言

田安中納言

同文言

五月廿三日

